第６章　郷土教育教科書における郷土美術内容と授業例

日本では、1998年の年末に新しい学習指導要領に導入された「総合的な学習の時間」の創設が話題になっている

まず、視点を日本において見ると、日本の小・中・高の学校教育現場では、最近、新しい学習指導要領の改訂にしたがって、一つの積極的な動きが見られる。それは、新しい学習指導要領が打ち出した学習活動である「総合的な学習の時間」を、どのように適切に取り扱うかについてのさまざまな試みである。

この動きは学校現場だけではなく、書店の教育書籍コーナーでも、『教育の流れを変える総合的学習』、『総合学習に使えるNIE実践ヒント・ワークシート集合』のような数多くの「総合学習」に関わっている本が、我々の注目を引く。また、テレビ放送のニュース時間に、総合学習に関する報道もしばしば見られる。例えば、1999年6月2日のNHK夜7時のニュースで、いくつかの先駆的な学校の授業実例、教員研修の実例、そして生徒や先生に対してのインタビューを通して、現時点の学校現場と教員研修の進み方をトピックとして取り上げていた。

大勢の人の注目を引き起こしたこの総合学習の重要な目的の一つは、いままで地域とは無縁とも考えられてきた閉鎖的な学校教育の扉を打開し、地域との連携を積極的に発展させようとするものである。この特徴も台湾の郷土教科に見られる。

近年、台湾においての新しい課程標準の実施にしたがって、日本のこの横断的・総合的な学習の性格に近いいくつかの郷土教科が、小・中学校で実施されている。しかし、台湾の郷土教科の公布から実施されている現在までの発展経過を見てみると、日本の「総合的な学習の時間」と最も異なっているところは、台湾の方は、これらの「郷土教学活動」、「郷土芸術活動」は教科として取り扱われているので、各種の教科書が使われていることである。しかも、これらの教科書の編集と出版の多元的なシステムから見ると、各種な機関より県・市版、地区版、学校版など多様な教科書を出している特徴が明らかに見られる。そして、内容においては、「郷土美術」は「郷土教学活動」と「郷土芸術活動」の内容構成の要素の一つであることが、新しい課程標準に明記されている。

筆者は、学校現場における郷土美術の実施状況を考察するために、1997年8月、1998年5月と1999年3月の3回にわたって台湾での現地調査を行った。これらの現地調査で収集した文献資料や郷土教科の関連教材や教材の型録などを分析すれば、その教材名、発行者、種類、内容、性質、適用対象などを類別すれば非常に多様である。一つの例を挙げてみると、その発行者は、文化行政機関、教育行政機関、教育研究機関、地方政府、学校、出版社、社会教育機関、文化教育基金会、歌謡協会、環境保護団体、文化保存会などの機関や団体に分けられるのである。

本研究は、台湾の小・中学校に新しく導入された郷土教科において、各地方

が編集した郷土教科書を分析し、それぞれの郷土美術の特質を明確にすることを目的としている。

第１節　教育部の補助・評価計画と各地方の実施状況

１．教育部の「小・中学校の郷土教育実施の補助計画」（「補助国民中小学郷土教学実施計画」）（資料6-1参照）

台湾の教育部は、小・中学校の新しい学習指導要領においての「郷土教学活動」、「郷土芸術活動」、「認識台湾」などの新設教科を順調に発足させ、確実に学校現場で実践させるため、1995年8月から、「小・中学校の郷土教育実施の補助計画」を打ち出した。これは、1995年から、教育部が毎年の年度計画を立て、そして、各地方が提出する郷土教育実施計画に合わせて、補助金を与える7年間の補助計画である。

1997年の計画目標は、各県・市や、その管轄下の郷、鎮、市、区などの地域を範囲とする小・中学校の郷土教科書・教材、ワークシート、教師用指導書の編集と出版、関連する写真、スライト、カセットテープ、ビデオなどのメディアの制作、現職教師の研修、郷土資源センターの設立、教育部と各地方との協調に基づいての「郷土言語」教材の編集と出版などである。次ぎの年の1998年は、前述のような基礎作業を引き続きついで推進するとともに、郷土教科を確実に実施することも目標として取り入れた。

２．各地方の実施に関する評価

各地方の三年間の実施状況と経費の運用を具体的に把握することを目的として、教育部は、1998年2月に郷土教育に専門知識を持つ学者、学校の校長、教師を招聘し、訪問視察委員会を設立して、10月まで集中審査や現地視察を通して、各地方の実績を評価した。この訪問視察の実施は次のようなものである。

(1) 訪問視察計画

①依拠　教育部の八十六年十一月十五日、台（86）國字第86116299号函が公布した「八十六学年度教育部補助国民中小学郷土教学実施計画」に基づき実施すること。

②目標　目標は、1.各県・市政府における教育部の補助計画の実行状況と成果を視察すること、2.各県・市政府が実行している郷土教材、郷土言語教材の編集、郷土教

育の教師研修の企画、郷土教育媒体の製作、郷土教育資源センターの設立などの具体策の効果を向上すること、3.各県・市政府の郷土教育の質的向上を促進すること、の三つの目標を定めた。

③経費補助の状況　教育部は、84、85、86学年度の3年間、各県市政府に対して、1億3552萬元を郷土教育実施計画の経費として補助した（資料6-2参照）。

④対象　教育部の84、85、86学年度の郷土教育実施計画補助金を受けた台北市政府教育局、高雄市政府教育局、台湾省各県・市政府、福建省の金門県及び連江県政府は対象となる。

⑤訪問視察の内容　訪問視察の内容は、1.各種類の郷土教材の編集成果、2.これらの郷土教材指導書の編集成果、3.教師研修の企画と実行の成果、4.郷土教育の媒体教材の製作成果、5.郷土資源センターの設立と関連資料、6.補助経費の使用状況、7.推進の方法と問題、8.その他、の八つの具体的内容を示している。

⑥実行委員　訪問視察実行委員は、表6-1で示されている専門学者、校長、教師を含め、合計12名である。

表6-1　郷土教育訪問視察委員名簿

名　前	性別	勤　務　先	職　名
石明卿	男	国立花蓮師範学院	副教授兼総務長
呉正牧	男	省立中歴高等商業学校	校長
林月娥	女	台北県三峡国民小学	教諭
林瑞栄	男	国立台南師範学院	教授
林碧霞	女	花蓮県東竹国民小学	校長
林継盛	男	花蓮県化仁国民小学	校長
陳家秀	女	国立台北師範学院	副教授兼総務長
陳根深	男	台北市天母国民小学	校長
陳海雄	男	台南市民徳国民中学	校長
欧用生	男	国立台北師範学院	校長
蔡清奇	男	台北県復興国民小学	校長
蔡義雄	男	国立台北師範学院	教授兼初等教育系主任

⑦訪問視察の流れ

表6-2　郷土教育訪問視察作業の日程

	主催者	時　　間	業　務　内　容
1	国教司	1998年2月	実施計画草案の制定と実行委員の選定
2	国教司	1998年3月26日	第一次準備会議：各県・市業務担当者と実行委員を招き、訪問視察作業内容についての意見交換をすること。
3	国教司	1998年4月1日	第二次準備会議：上述の人員を招き、「教育部補助国民中小学郷土教学実施計画執行成果訪視要点」を定めること。
4	国教司	1998年4月14日	業務説明会議：各県・市業務担当者を招き、各県市の配合作業の推進に役に立つするよう、計画の内容、実行の方法を説明すること。
5	業務担当学校	1998年5月下旬	各県・市の自評表と関連資料の花蓮県吉安郷化仁国民小学への送付
6	訪視チーム	1998年6月上旬	各県市の自評表と関連資料の予備審査
7	訪視チーム・業務担当学校	1998年6月11・12・13日	集中審議会議の開催、各県・市の実施成果の集中審査、各県・市の解説員の現場における説明と交流
8	訪視チーム・国教司	1998年6月29・30日、7月2・3日	集中審査結果の優位な県・市と学校への現地訪問視察
9	訪視チーム・国教司	1998年7月8・9日	訪問視察結果会議：評価表の作成、最終審査により、実施成果の良い県・市を選定すること
10	国教司・台南師範学院	1998年8月19・20日	訪問視察結果説明会と検討会の開催
11	業務担当学校・国教司	1998年8月末～10月末	訪視チームの評価報告をまとめ、総報告書を作成すること、優位県・市への表彰、実施成果特集の編集と各県市への送付

集中審査により、台中市、台中県、台北市、台北県、台東県、台南県、苗栗県、花蓮県、宜蘭県、高雄市、高雄県の12県・市が良い評価を得た。この中から、台南県、苗栗県、高雄県、花蓮県、台中市、台中県、の六つの県・市は現地の訪問視察対象になった。最終結果としては、台中県、台北市、台北県、台東県、台南県、苗栗県、花

蓮県、宜蘭県、高雄市、高雄県の11県・市が表彰の対象と決められた[249]。

(2) 各県・市の郷土教材に関する評価

今回の評価項目には、郷土教材の編集は最も重要な項目とされ、その点数の分配は全体点数の55%と占めている。上述の表彰を受けた11の県・市の郷土教材の編集について、次のようなそれぞれの特色が見られる。

①台南市と台東県の教材は、最も郷土教材編集の理想に近いものと認めた。つまり、小学生用、郷土化、授業用、活動化の四つの編集理想を実現したものと考えられる。台南市の教材は行政区を範囲とするもので、台東県の方は郷・鎮を範囲とするものである。両方とも精緻的な内容に発展してきた。

②台北市と高雄市の教材は、両方とも学区を範囲とし、開放教育と取り組んで、ワークシート式の学習を主とするものである。しかし、各学校の編集レベルは一致していない欠点も明らかである。

③宜蘭県、高雄県、台北県はすでに早い時期の1980年代から、それぞれの郷土教材の開発が始まり、膨大な人的、物的資源を投入した。しかし、文化素材や、補充教材は整っていることに比べて、正式の教科書の設計は多少遅れがある。例えば、高雄県の郷土教材は、その美化と子ども的可愛い表現は見る人に強い印象を与えられるが、学習指導活動の設計の面はその重要な目標になっていない。

④花蓮県、台中県の郷土教材は、両方とも郷・鎮・市を範囲とするものである。しかし、台北市と高雄市と同じような各郷・鎮・市の編集レベルは一致していない欠点も明らかである。また、印刷の品質や効果から見ると、花蓮県の方は美的効果が見られることに対して、台中県の方は、白黒あるいは単色の印刷が美的効果にマイナス的影響を与えている。

⑤台南県と苗栗県の郷土教材は共通点よりも相違が著しいと見られる。台南県のものは、生活区を範囲とし、印刷効果はレベルに達しているが、学科本位と成人の観点が現わされ、子ども的可愛さや、面白い学習などの要素は不足である。苗栗県の場合は、県を範囲とする教材で共通的と普遍的概念が強調されているが、郷土教材の独特性が無視された。また、この県を範囲とする教材の編集は、小学校3学年郷土教学活動の課程標準の学区や、行政区を範囲とする教材編集のねらいと一致していないのも指摘される。

そして、全国の25県市の郷土教材についての訪問視察実行委員の意見をまとめてみると、地理的空間から見れば、東部、南部、北部は西部、中部よりよい成果が見られる。展開する時期から見れば、1987年、非常時期法の解除にしたがって、当時民主進歩党及び無所属がリーダーしていた台北県、宜蘭県、新竹県、彰化県、高雄県、屏東

---

[249] 教育部国民教育司、『教育部補助各県市国民中小学郷土教学実施計画84～86学年度執行成果訪視報告』、教育部、1999年、3-11頁

県の7県は先立つして、共同に「本土言語教育問題」シンポジウムを開催することをはじめ、郷土教材の開発にも多くの力を入れ、郷土文化素材の整理、研究と郷土補充教材の編集と発行に高い評価を得た。しかし、郷土教科の正式に小・中学校に導入されることによって、郷土教材の開発が全国的に展開してきた結果、前述の先導的郷土教材の開発で知られる7県においての正式の郷土教科書の編集レベルは、かえて多くの県市に追い越された状況が生じた。

共通的改善の必要な点について、1.小学生に適用、郷土化、学習指導に適用、活動化の四つの編集方針に違反し、成人向け、学科本位、観光向け、静態的など欠点が著しく見られる、2.郷土の歴史、地理、自然、芸術、言語の五つの領域がそれぞれ独立された枠組みは、統合的表現の編集方針と合致していない。学習活動の設計も静態的に偏り、多様性が欠いた、学習者の興味を引き起こすにはマイナス効果になっていると考えられる、3.課程標準に示されている、郷土の範囲は中学年は行政区で、高学年は県であるという原則に合致していないことも目立つことである[250]。

3．郷土教材の編集・発行状況

上述の評価報告書である『小・中学校の郷土教育実施の補助計画における1995～1996学年度執行成果の訪問考察報告』（『教育部補助各県市国民中小学郷土教学実施計画84～86学年度執行成果訪視報告』）は、当時の業務担当学校の校長の林継盛校長[251]（現在、台湾の花蓮市立明義小学校の校長）により、提供された。筆者はこの報告書と自分が近年に行った調査結果の考察などを合わせ、多様な視点を通じて分析し、次のような実施状況と郷土教材の編集・発行状況を描き出す。

（1）各地方の経費使用状況を見れば、郷土教材の編集・発行の項目の支出は最も多くな割合を占めていることが分かる。二つの例を見てみる。

まず、高雄市の例をみる。高雄市の郷土教育経費支出明細表においては、84・85・86学年度の3年間に教育部から660万元の補助金を受けた。この補助金の75.7％（小学校の40.3％と中学校の35.4％）[252]は郷土教材の編集・発行の項目下で支出された。次に、台中市の例をみよう。台中市の郷土教育経費支出明

---

[250] 教育部国民教育司前掲書、67-71頁

[251] 林継盛校長は「小・中学校の郷土教育実施の補助計画における84～86学年度執行成果の訪問考察」実行委員の一人であり、この業務を担当する花蓮県立化仁小学校の元の校長である。筆者が、1999年3月に台湾で第3回の郷土教育実施状況の現地調査を行ったとき、知り合いの花蓮市の美術教育家である萬栄瑞先生のご紹介で、林校長を訪れて、教育部の上述の業務に関しての重要な話を聞くことができた。

[252] 高雄市政府『教育部補助国民中小学郷土教学実施計画高雄市政府執行成果自評表』、高雄市政府、1998年、6頁

細表においては、84・85・86学年度の3年間に教育部から580万元の補助金を受けた。この補助金の68.2％（小学校の39.7％と中学校の28.6％）[253]は郷土教材の編集・発行の項目下で支出され、高雄市のように多くはなかったが、ほかの項目の支出状況に比べて、変わらなく支出経費全体の最も高い割合を占めている。

（2）これらの郷土教科書の出版状況を使用対象に分けて見れば、小学生用と中学生用とともに、編集範囲が県・市を中心とされる「県・市版」の教科書はすべて見られる。しかし、県・市の管轄下の郷、鎮、区などの地域を中心とする「地区版」の教科書の出版を見ると、中学生用「地区版」の教科書の出版は、小学生用に比べて極めて少ないものである。

（3）学校の周辺を範囲として、自主開発の郷土教科書の場合は、小学校においては、多く見られるが、中学校では数は大変少ない。

（4）中学校の「郷土芸術活動」教科に使う教科書をのぞく、この教科の関連教材・補充教材（書籍を指す）の出版は、小学校の「郷土教学活動」より大変少ないが、台中県では、管轄内の中学校が出版した郷土芸術活動の補充教材は14種もある。

（5）ＣＤ、スライト、ビデオ、カセットテープなどの視聴覚補助教材は、ほとんど出版されている。その中、台北市の「台北郷土芸術活動教材（一）（二）」、台北県の「楊三郎記念特集」、桃園県の「木の美」、「范姜古厝」、台中市の「郷土芸術展示、公演活動」、「台中市の七大古蹟」、苗栗県の陶芸、漁業、製茶に関連する竹工芸を中心とする「郷土工芸」、嘉義市の郷土演劇、郷土音楽を取り入れている「視聴覚芸術」、澎湖の「伝統建築・郷土芸術造形」などの媒体は、地方の郷土美術の特色を呈している。

---

[253] 台中市政府『教育部補助国民中小学郷土教学実施計画台中市政府執行成果自評表』、台中市政府、1998年、4頁

第２節　小・中学校で使われている主要な郷土教科書

１．郷土教科書の編集・発行システム

全国で使われている教育部が編集した国定教科書である、中学校の『認識台湾』を除いて、小・中学校の郷土教科の授業で使われている教科書の編集と発行についての調査結果を見れば、地方によってその発行システムの違いが明らかである。大別すれば、四つのシステムが見られる。

（1）主催者である地方の教育局が専門家を招き、編集や研究グループを作り、一つの学校にまとめ役を任せて県・市版教科書を作るシステムである。

（2）教育局は、管轄下の各行政区に編集や研究グループの結成することを依頼し、補助金を与え、区版教科書を作らせるシステムである。

（3）教育局が補助金を各学校に与え、各校が独自に編集や研究グループを結成して、最も適した学校版教科書を作るシステムである。

（4）学校は、教育局の郷土教材制作補助金を申請せず、全て独自作業で学校版教科書の編集と発行を行うシステムである。

以上の四つのシステムによって出版した教科書内容の範囲を類別すれば、1.県・市を範囲とするもの、2.地区（郷、鎮、市）を範囲とするもの、3.学校とその所在するコミュニティを範囲とするもの、の三種に分けられる。

小学校と中学校を分けて見れば、中学校の「郷土芸術活動」教科の場合は、国定教科書が発行されおらず、各地方政府が専門家に頼って編集したものを使っているのである。その教科書の発行は、全て一番目のシステムに属するものであり、各地方の風土・文化の特色を生かした教科書の内容が作られている。しかし、小学校の場合は、その「郷土教学活動」教科書の編集、発行作業は、四つのシステムをすべて含む傾向が見られる。次は、台北市の実例を取り上げ、小学校のこの多元的出版状況を説明する。

２．台北市の教材開発

台北市の学校における郷土教材の開発も1982年の早い時期にすでに始まった。当時の楊金叢市長の指示にしたがって、「台北市国民中小学及ぶ高級中学における確実的郷土教育の実施要点」（台北市国民中小学既高級中学加強郷土教育

実施要点）と「台北市国民小学における郷土教材センターの設置計画」（台北市国民小学郷土教材中心設置計画）の二つの計画が公布され、実施された。これらの二つの計画に沿って、東西南北中の五つの教育区にある士林、成淵、萬芳、忠孝、萬華の五つの中学校に郷土教材センターが設置され、さまざまな郷土教育活動が展開された。郷土教材の編集と発行も重要な一環とされ、表6-3のような数多くの教材が研究の成果を具体的に提示した。

この時期、学校に限らず、教育局も『私の家は台北にある』（『我家在台北』）、『台北物語』（『台北的故事』）、『飛躍的な台北』（『飛躍的台北』）、『私が好きな台北』（『台北我喜歓』）、『故郷を語る』（『説我家郷』）などの所謂「郷情シリーズ」の教材を編集し、各学校に配った[254]。これらの教材は、豊かな内容を有し、現在の郷土教材の開発の基礎になっているとも考えられる。

視点を現在においてみると、台北市においては、一番目のシステムで作った本は、『台北市国民小学郷土教学活動ワークシート』、『故郷台北』、『山水台北』、『芸術台北』などである。二番目のシステムで作った本は、『台北市大同区郷土情』、『士林区郷土教材教師手冊』、『萬華区郷土教材ワークシート』などである。三番目のシステムで郷土教科書を出版した小学校は約80校もあった。例を挙げれば、『福林国小叢書　郷土遊蹤　低・中高年級』や、『台北市興華国民小学社区歩道教学　郷土情　隣里愛』や、『台北市萬福国民小学　快楽童年郷土情』や、『台北市文山区景興国民小学郷土教材研究専輯』などがある。四番目のシステムで作った本は、台北市雨農国民小学の『郷土教学学習手冊　拝訪芝山岩』（１年～６年）が挙げられる。

そのほか、地方の実態や、条件によって、ただ県版だけを発行した苗栗県、新竹県、嘉義県などのケース、あるいは区（郷、鎮、市）版や、学校版だけを発行した宜蘭県、桃園県、台南県、台東県などのケースも見られる。

ちなみに、これらの教科書に関連する教師用指導書の発行は、地方によって、発行したところと発行していないところの二つの状況になっている。

---

[254] 国立教育資料館『台北市の国民小学郷土教学活動に関するアンケート調査』（『台北市国民小学郷土教学活動之意見調査』、国立教育資料館、1995年、26-29頁

表6-3　台北市の学校における80年代に開発された郷土教材

学校名	教　材　名　と　内　容
士林国中	**『陽明山地区の郷土教材専輯』**：陽明山地区の行政区、地形、気候、産業、古蹟古物伝説、歴史的背景、民俗礼儀、交通と観光、教育などを描き、特に、芝山岩から発掘した文物の研究により、中国大陸沿海地区の文化との類似点が多く見られ、台湾文化と大陸文化の関連性を実証できて、この郷土教材の重点となっている。
成淵国中	**『郷土教材研究専輯』**：沿革、台湾と大陸との文化関係、台湾経済、郷土音楽、台湾の古建築、台湾の四大名字（姓氏）考、台湾宗教概況、郷土廟宇古蹟、大同区と淡水河、基隆河の淵源、郷土文化、廸化街への訪れ、郷土人物誌、郷土民俗、郷土伝説などの14項目。
萬芳国中	**『郷土教材研究専輯甲』**：地質学や地形学の視点から見る台湾と大陸との地縁関係と、祖籍や民俗や言語（方言）や社会制度などの視点から見る台湾と中国大陸の血縁関係の二つの内容 **『郷土教材研究専輯乙』**：景美、木柵地区の名勝古蹟、教育概況、機関団体、模範母親に関する記述
忠孝国中	**『私たちのコミュニティー　大稲埕』、『西門町の研究』、『郷土教材専輯』**：文献、古蹟、文化、史料、商業、交通、宗教など
萬華国中	**『猛甲地区郷土教材専輯』**：沿革、地理、住民、経済、教育、宗教、芸文、人物、雑録の九つのジャンルに分けられ、55篇で構成する巨著
新和国小	**『可愛いhometown－南機場』**
銘傳国小	**『郷土の起源を探る』**（『郷土尋根』）
南港国小	**『私は南港うまれ、育つ』**（『我生長在南港』）
龍山国小	**『私の家は猛甲にある』**（『我家在猛甲』）

3．小・中学校の主要な郷土教科書の内容編成

筆者が分析の参考とした小・中学校の郷土教科書は、すべてこの5年間にわたて行った現地調査と台湾の先生や友人を通じて収集したものであり、そのリストは次のようなものである。

表6-4　小学校郷土教科書リスト

書　　名	編　著　者	出版時間
1.『台北県国民小学郷土教学活動三年級学生手冊』	板橋市実践国民小学	1998.7
2.『苗栗県国民小学郷土教学活動三年級全一冊』	苑里鎮中山国民小学	1998.8
3.『金門県国民小学郷土教学活動教材第三冊』	金城鎮中正国民小学	1998.8
4.『宜蘭県○○○国民小学郷土教学活動手冊』３、４学年用合計39冊 宜蘭市4、羅東鎮4、大同郷2、員山郷2、五結郷4、南澳郷3、冬山郷4、蘇澳鎮2、三星郷2、礁渓郷4、壮圍郷4、頭城鎮4	各地方の編集委員会	1996 ～ 1998
5.『花蓮県○○○国民小学郷土教材三年級学生課本』合計13冊 富里郷、瑞穂郷、玉里鎮、豊濱郷、吉安郷、鳳林鎮、花蓮市、卓溪郷、光復郷、新城郷、寿豊郷、萬栄郷、秀林郷	各地方の編集委員会	1998.2～1998.9
6.『台東県○○○国民小学三年級郷土教学活動学生手冊』合計16冊 東河郷、成功鎮、延平郷、蘭嶼郷、大武郷、池上郷、緑島郷、卑南郷、関山郷、鹿野郷、海端郷、太麻里郷、達仁郷、長濱郷、台東市、金峰郷	各地方の編集委員会	1998.3
7.『台南県○○区国民小学郷土教学活動三年級課本』合計5冊 新営区、北門区、新化区、曽文区、新豊区	台南県国民小学郷土教材編集委員会	1998.7
8.『台南県○○区国民小学郷土教学活動四年級課本』合計5冊 新営区、北門区、新化区、曽文区、新豊区	台南県国民小学郷土教材編集委員会	1999.2

書　名	編　著　者	出版時間
9.『桃園県〇〇〇国民小学郷土教学活動三年級』合計13冊 桃園市、楊梅鎮、平鎮市、中壢市、復興郷、観音郷、亀山郷、芦竹郷、大溪鎮、新屋郷、龍潭郷、大園郷	各地方の編集委員会	1999.1
10.『高雄市国民小学郷土教材実地調査手冊』合計28冊小学生用説明、親と教師用指導書、右昌楊家古宅、半屏山、崇聖祠、蓮池潭、左営旧城、龍泉寺、小溪貝塚、寿山自然生態、美術館、元亨寺、高雄市史跡文物陳列館、、西子湾、雄鎮北門、金獅湖、義民廟、高雄火車站（駅）、三鳳宮、中正文化センター、前鎮漁港・海底トンネル、旗后灯台、旗后砲台、旗后天后宮、紅樹林、中州汚水処理工場、南星計画、愛河	高雄市政府教育局	1996.6
11.『台北市文山区景興国民小学郷土教材研究専輯』	編集委員会	1996.5
12.『台北市興華国民小学校園歩道教学活動設計』	編集委員会	1995.3
13.『台北市興華国民小学社区（コミュニティ）歩道教学活動設計』	編集委員会	1995.5
14.『郷土教学学習手冊　拝訪芝山岩』合計6冊 1年～6年	台北市士林区雨農国民小学編集委員会	1995.9 再版
15.『福林国小叢書之七　国民小学語文戸外学習活動手冊』	編集委員会	1997.9 再版
16.『福林国小叢書之八　国民小学語文戸外学習活動手冊』	編集委員会	1997.2
17.『福林国小叢書之九　国民小学語文戸外学習活動手冊』	編集委員会	1997.9 再版
18.『福林国小叢書之十　郷土遊蹤　低年級』	編集委員会	1997.9
19.『福林国小叢書之十一　郷土遊蹤　中年級』	編集委員会	1997.9
20.『福林国小叢書之十二　郷土遊蹤　高年級』	編集委員会	1997.9
21.『台北県親子休閑旅遊手冊　三峡鶯歌線』	台北県鶯歌国民小学・大成国民小学	1998.6

表6-5　中学校郷土芸術活動教科書

書　　名	編　著　者	出版時間
1.『台北市国民中学郷土芸術活動』	台北市政府教育局	1997.8
2.『高雄市国民中学郷土芸術活動』	高雄市政府教育局	1997.6
3.『台北県国民中学郷土芸術活動』	台北県政府	1997.9
4.『高雄県民俗芸術』	旗山国民中学	1997.6
5.『桃園県国民中学郷土芸術活動』	青渓国民中学	1997.10
6.『新竹市国民中学郷土芸術活動』	育賢国民中学	1996.7
7.『台中市国民中学郷土芸術活動』	台中市政府	1997.8
8.『台中県国民中学郷土芸術活動』	台中県政府	1997.7
9.『苗栗県国民中学郷土芸術活動』	鶴岡国民中学	1998.8
10.『台南県郷土芸術教材』	台南県政府	1997.8
11.『金門県国民中学郷土芸術活動』	金門県政府教育局	1997.6
12.『花蓮県県国民中学郷土芸術活動』	花蓮県政府教育局	1998.9
13.『桃園県国民中学郷土芸術活動教師手冊』	青渓国民中学、桃園県政府	1997.10

（1）小学校の合科的内容編成

小学校の郷土教科書の種類は、地方によって異なっているが、ここで取り上げたいのは中・高学年を対象とする「郷土教学活動」教科書である。これらの教科書では、郷土の歴史、地理、自然、芸術、言語で構成されており、各学習単元が総合的なかたちで表わされている。しかし、郷土言語を独立させ、河洛語、客家語、原住民各族の言語読本のかたちで、「郷土教学活動」授業に取り組んでいる地方も少なくない。

教科書の内容編成については、表紙には、表題と写真や、図画、そして、編集・出版者の名前が見られる表題は簡潔に表すものと、地方の特色を強調し、副題がついているものの二つのタイプが見られる。「台北県国民小学郷土教学活動三年級学生手冊」、「台南県北門区郷土教学活動三年級課本」、「大渓鎮国民小学郷土教学活動三年級」（桃園県）などは前者であるが、「蘇澳鎮国民小学郷土教学活動手冊　三年級　山海之間的漁郷」（宜蘭県）、「高雄市国民小学郷土教材実地調査手冊26　愛河」などは後者である。両方とも紙面を美化するために、学習内容に関連し、地方の特色を表現できる写真や、図画が飾られている。

地方政府が出版した教科書の場合は、表紙を開くと、「県長（県知事）序」、「市長序」、「局長序」、「編集者の話、編集要旨」、「子どもたちへ」、

「前言」、「目次」、「本文」、「メモ欄」や、「心得筆記」、「附録」、そして「奥付け」などの順序で本全体を構成している。

本文の編成は、郷土地理、郷土自然、郷土芸術、郷土歴史の要素を取り入れて、「章、節」、あるいは「単元」の組み方で編成するものが多い。章や単元の下に、小項目を設けるものと設けないものの2種類に分けられる。それぞれの例を挙げてみる。

①『台北県国民小学郷土教学活動三年級学生手冊』[255] （資料6-3参照）

表6-6 『台北県国民小学郷土教学活動三年級学生手冊』の単元編成

単元名	単元の構成内容
第1単元 私たちの学校を愛する	学校の基本帳、近くの学校を訪れる、学校の歴史を歩む、学校の話を探してみる、私たちの学校を愛する、学校にいる友だち
第2単元 故郷の位置と地名の起源	台北県を認識する、私たちが住んでいるところ、私たちの隣人を認識する、台北の時間の列車、台北の古い地名、これらの地名の起源
第3単元 故郷の交通	ちびっこ列車掌、楽しいちびっこ博士、ちびっこ運転手、インタネットの小妖精、緑服の天使
第4単元 故郷の物産	台北県の豊かな物産、故郷の物産は知っているか、ちびっこ賞味家、大コックさん、物産と私たちの暮らし
第5単元 故郷の名勝と古蹟	ちびっこ考古家、ちびっこ鑑賞家、ちびっこ探検家、ちびっこ解説員
第6単元 故郷の歌謡	港都夜雨、望春風、好地方、結婚の歌、台湾童謡
第7単元 故郷を愛する	ちびっこガイドさん、ちびっこ観察員、ちびっこ審査員、ちびっこ環境デザインナー

この教科書には、「編集者の話」の欄が設けられ、使用上の説明と単元主題・学習目標について、説明している。使用上の説明には、1.この教科書は県の共通教材として使用すること、2.全県の九つの区もそれぞれの補充教材があるの

[255] 台北県板橋市実践国民小学『台北県国民小学郷土教学活動三年級学生手冊』、台北県政府、1997年、6-7頁

で、両方とも円滑に取り組んで使い、充実な学習効果を発揮すること、3.学習者の興味を引き起こすため、討論、参観、訪問、観察、調査、鑑賞、遊戯などの形を適切に静態的、動態的、室内的、戸外的な学習に取り入れ、多様な学習活動を応用すること、4.授業時間は毎週一回の40分間に定められているが、必要に応じて、隔週80分間の授業や、3週一回120分間の授業、あるいは週末を利用して、教師、保護者、児童の三者協力の形、親子活動の形で進めること、5.故郷の名勝・古蹟と故郷の歌謡の二つの単元に関連するビデオが各学校に供給し、学習効果を向上するために活用すること、6.この教科書と教師用指導書は同様に七つの単元で構成されているが、教師は各学校や地域の状況に応じて、学習内容を増加、削減、修正するようにこの教科書を活用すること[256]、の六つの説明が示されている。

単元主題・学習目標には、各単元の学習目標が具体的に示されている。例えば、第５単元「故郷の名勝と古蹟」の学習目標は、1.故郷の名勝と古蹟、2.故郷の地図におけるこれらの名勝・古蹟の正確な位置を知る、3.故郷の古い街、古い建築、亭園、廟宇、風景区を知る、4.これらの名勝・古蹟の関連資料の収集や、鑑賞の適切な方法を把握できる[257]、の四つの学習目標を設定されている。

②『台東県国民小学卑南郷郷土教学活動三年級学生手冊』（資料6-4参照）

第１単元　我々の村と学校を認識する
第２単元　きれいな故郷
第３単元　卑南郷の沿革
第４単元　便利な交通
第５単元　大樹おじいさん
第６単元　美味しい伝統味
第７単元　故郷の各民族を認識する
第８単元　私は美しいが、毒を持っている
第９単元　ちまきを包む笹の葉の香りが漂っている
第10単元　私たちの歌を歌って
第11単元　壮観な河川
第12単元　食用・薬用の龍葵
第13単元　牧野の風景

台東県の郷土教学活動教科書の単元編成はこのように、台北県と違って、一

---

[256] 台北県板橋市実践国民小学『台北県国民小学郷土教学活動三年級学生手冊』、台北県政府、1997年、4頁
[257] 同上、5頁

つの単元の元には細かく分類されていないが、実は各単元とも同じくワークシート式でいくつか活動が定めている。例を挙げれば、第7単元の家郷の各民族を認識するにおいては、次のような活動が見られる。

表6-7　台東県卑南郷郷土教学活動三年級学生手冊第7単元の内容

活　動	内　　容
活動一	皆さん、本郷に住んでいる民族を知っていますか。それぞれの族名を述べてください。（少数民族も忘れないように）
活動二	皆さん、各自の所属族は何族ですか。自分の祖先はどこから来ましたかをお父さんやお母さんに聞いてください。 **私は（　　）族です。** **私の祖先は（　　）省から（　　）県（　　）郷（　　）村に移ってきました。** 皆さんは本郷に住んでいる各民族はもう知っています。自分はどこから移ってきたことも知っています。来週、本郷の各民族の服飾を見ます。お家で各族の写真を集めて、次の授業に持ってきてください。
活動三	これは（　　）族の服飾、その特徴を述べてください。 （6枚の写真が載せている）
活動四	1.本郷は約（　　）族がいます。 2.私は（　　）村に住んでいます。この村には（　　）族、（　　）族、（　　）族・・・が住んでいます。 3.次の地図に色を塗ってください。そして、地図に書いてある各村に住んでいる民族を述べてみてください。

ほかの教科書を調べてみると、同じく各単元に関する文字の叙述のほか、単元別の評価活動は「ワークシート」（「自助学習単」）、「考えてみよう」、「描いてみよう」、「学習活動」、「親子時間」、「参観活動」、「歌って、踊って」、「調べて」など多元的な方法が見られる。小学校の郷土教科書の、このような多様的な学習活動は中学校の郷土教科書より活用されていることは、小学校のこれらの郷土教科書の特徴である。

(2) 中学校の『郷土芸術活動』教科書の内容編成

ここで取り上げたい中学校の郷土教科書の内容編成は、「認識台湾」においての国定教科書である『認識台湾』を除いて、各地方政府が発行した『郷土芸術活動』（資料6-5参照）を対象とするものである。

まず、教科書の表題については、高雄県の『高雄県民俗芸術』や、台南県の『台南県郷土芸術教材』などが見られるが、新しい『国民中学課程標準』の教科名に沿って、『○○県（市）国民中学郷土芸術活動』はほとんどである。表

題と各地方それぞれの建築、芸能、原住民芸術、風土の写真で、表紙の紙面を構成するのはこの教科書の特徴の一つと考えられる。

その本全体の編成は、小学校の『郷土教学活動』に近い。学習内容で構成する本文の編成には、「篇」、「章」、「節」の組み方はそれぞれ違っているが、『国民中学課程標準』の「郷土芸術活動」の学習内容に明示されている「郷土芸術活動への認識」（「郷土芸術活動簡介）、「郷土造形芸術」、「郷土芸能」、「郷土芸術の展示と公演」（「郷土芸術展演」）の四つの領域に沿って編成されているものが、最も多く見られる。

学習内容においては、地方の風土や民俗の特徴に深く関わっていて、考えられないほどの多様性に溢れている。いくつかの例を挙げてみると、例えば、原住民の儀式、祭典、造形芸術、音楽、舞踊などについては、桃園県は泰雅族と阿美族を中心とするもの、苗栗県は泰雅族と賽夏族を中心とするもの、そして、高雄県は布農族を中心とするものである。けれども、原住民の部落が見られない台北市と高雄市が挙げているのは原住民のすべての族を含んでいる概観的なものである。また、原住民のいない金門県では、原住民については、何も触れていないのである。「郷土造形芸術」においても、このような特徴が見られる。

例えば、台中県の特産である、「大甲帽」、「大甲草シート」（大甲地方の特産である大甲草で作る生活器具）、「大甲東陶窯　」、高雄県の「原郷情一美濃的紙傘」（美濃地方の特産である紙傘）、金門県のシンボルである「金門風獅爺」（福建省金門県でよく見られる石彫の獅子のかたちの守り神）、台北県の三芝の「川上交趾陶」（中国の広東仏山に伝来した陶芸技法で、寺廟建築の装飾に用いる）、台北市の「台北市古蹟・遺址一覧表に語られている龍山寺、圓山遺跡、台北孔子廟、台北郵便局…」などの具体的な事例が、「郷土造形芸術」という独立領域にまとめられ、図版や写真を通して、生き生きに伝わっている。

これらの台湾の風土に生まれて「伝承」されてきた物事は、子どもたちにとって生きている教材であり、彼らの五感を通じて実証しやすい「暮らしに結びつける台湾文化」であると考えられる。

上述の事例に関する文字の叙述のほか、単元別の評価活動も「ワークシート」、「問題と活動」、「自分で考える、自分で作る」（「動脳・動手ＤＩＹ」）、「欣賞（喜んで見る）與討論」、「活動発展」などさまざまなかたちで取り入れられている。

第３節　郷土教科書における郷土美術の内容

１．『郷土教学活動』の融合的内容構成

小学校の「郷土教学活動」教科書に見られる郷土芸術は、一つの独立単元として取り扱われていることもあるし、各単元に融和されているケースも見られる。

前者の例を挙げれば、台北県の第三学年用教科書では、「家郷の名勝と古蹟」と「家郷の歌謡」の二つの単元は、郷土芸術を中心とするものである。そして、台南県の北門、新営、新化、新豊、曽文など各地区版の教科書には、郷土芸術がほとんど「家郷の芸術」の一つの章として取り入れられている。また、台東県の『蘭嶼郷郷土教学活動三年級学生手冊』でも、「きれいな雅美の船（好美的雅美船）」と「私は雅美の模様を描ける（我会画雅美図紋）」の郷土美術単元が見られる。

後者の例の一つは、宜蘭県の『冬山郷国民小学郷土教学活動手冊　四上　冬瓜山』に、第１章の「おじいさんの昔話」に「丸山文化遺址」の発掘によて発見された陶器や、玉器の紹介と写真が載せられていることである。また、高雄市の『我々の高雄を愛し（愛我高雄）』では、高雄市立美術館や国立科学工芸博物館などの郷土の美術施設が第３章の「展望高雄の未来」にある「未来の港町文化の旅」に取り入れられていることもある。

前述の「家郷の芸術」の章を設けられている台南県の例を分析すれば、県内の塩水武廟、天主教会、新化地方のオランダ式三棧樓（３階建ての建物）、七股地方の中寮仔の紅瓦昔（赤い瓦の建物）など各地の寺、廟、民家などの伝統建築（資料6-6、6-7参照）とその中の装飾、設備、器具、供え物を作る木製の版、伝統芸能の「八家将、十二婆姉、金獅陣」（台湾の祭でよく見られる昔の伝説人物と獅子舞のこと）に使われている人物の服飾、獅子のお面、麻豆文衡殿牌樓の行書と隷書で刻んだ石彫、お正月に扉の枠に張られている「春聯」などの具体的なものが台南県の郷土美術の内容と考えられる。

原住民の造形芸術の取り入れる理由は、各地方の地理条件と深く関係している。中学校の『郷土芸術活動』とは違って、原住民の少ないあるいはいない地方は、その教科書には、原住民の造形芸術が全然見られないが、台東、花蓮、宜蘭のような原住民の分布が多い地方の郷土教学活動教科書には、原住民の造形芸術の単元も豊かに導入されている。

2．補充教材：三峡・鶯歌線の旅

本章２の（2）各県市の郷土教材に関する評価では、台湾の七つの県は好評を得た郷土教育の補充教材を発行したことを述べた。ここで、これらの補充教材における郷土美術に関する事例を見る。

「芸術の殿堂」を題とする、台北県政府が発行する『台北県親子休閑旅遊手冊　三峡・鶯歌線』[258]は、親子の旅を通じての台北県三峡・鶯歌線郷土学習の本である。全ての活動はワークシートのかたちで構成すること、説明は少なくて、簡潔で分かりやすいこと、図表も子ども向けの活発な表現であるもの、美術に関する活動は多く見られることはこの本の特色と考えられる。まず、この本における郷土美術活動を表6-8でまとめる。

表6-8　『台北県親子休閑旅遊手冊　三峡・鶯歌線』における美術活動

単　元　名	活　動　内　容
第１停留所　郷土の画家を訪れる	李梅樹記念館について 活動1：名探偵の探す、推理、探究 活動2：忘れられない作品
第２停留所　三峡祖師廟	三峡祖師廟について 活動1：可愛い動物 活動2：祖師廟を観察する 活動3：石獅子を観る 活動4：廟の守護神 活動5：柱珠を観る 活動6：ちびっこ画家 活動7：龍兄虎弟はどこにいる
第３停留所　三峡老街	三峡老街について 活動1：老街を知る 活動2：伝統建築の構造を観察する
第5停留所　陶磁の里-鶯歌	活動1：鶯歌について 活動2：鶯歌の煙突 活動3：陶と磁 活動4：陶磁器作りについて 活動5：尋幽訪勝に行こう

[258] この親子旅行手冊シリーズは全部7巻でなっている。三峡・鶯歌線のほか、烏来線、五股・林口線、瑞芳・九分線、陽明山・淡水線、金山・野柳線、平溪・汐止線の6巻がある。

3．『郷土芸術活動』の内容と特色

新しい中学校の課程標準は「郷土芸術活動」教科の学習内容について、「教材綱要」に四つの類別が提示されている。その中の「郷土造形芸術」は、郷土美術と直接に関わっていると考えられる。「郷土造形芸術」は、平面造形芸術、立体造形芸術、原住民造形芸術の三つのジャンルでなっているものである。この三つのジャンルの元に、更に具体的な項目がいくつかが示されている。つまり、平面造形芸術は、①民俗版画、②廟宇の彩絵、③民間の吉祥図画、④伝統演劇の顔譜（歌仔戯、布袋戯、傀儡戯などの役者や人形の隈取りの造形）の四つの項目で構成されている。立体造形芸術の内容は、①古跡、廟宇建築、②家具、③花灯篭、④凧、⑤彫刻（木彫、竹彫、石彫）、⑥草編み、竹編み、⑦その他の捏麺人（小麦粉人形）、郷土玩具、吹画糖人（飴細工）、交趾陶、ガラス工芸…の七つの項目からなっている。そして、原住民造形芸術においては、①彫刻、②器物、③建築、④紡績の四つの項目が見られる[259]。

したがって、各地方が編集した『郷土芸術活動』には、以上の教材綱要より豊かな内容が見られる。例えば、平面造形においての春聯、民間書画、篆刻、切り絵、伝統染色刺繍、石碑、肖像画、道釈人物画（道教と仏教）、郷土画家の作品と立体造形においての伝統家具、陶磁器、瓢彫（瓢箪彫刻）、煉瓦彫、金工、革工芸、紙傘、伝統民家建築、古墓、風獅爺と原住民造形芸術においての黥面が取り入れられている。

各地方の「郷土芸術活動」教科書の編集枠組は、課程標準に基づいたものが多く見られるが、具体内容の取り入れは、それぞれの地方の特色に焦点を合わせるのはすべてである。それ故、これらの学習内容の性格は、台湾の郷土美術を概観的に紹介する部分と各地方の伝統的な特色を強調する部分の二つのタイプを含んでいる。

（1）共通的内容の概観

平面造形芸術においては、民俗版画、寺廟の彩絵、民間の吉祥図画、伝統演劇の顔譜の四つの項目は共通性と概観性が強く見られる。それぞれの内容を見ると、民俗版画は、中国の華南地区の影響を受けながらも台湾の民俗生活や、宗教信仰と直接結びつき、「招福」と「汚れ払い」を目的とするものである。廟宇の彩絵とは、廟宇建築の木の扉や石灰壁に伝統的な手法で、塗料を塗り、宗教人物や伝統模様の絵を描く、廟宇装飾の技法の一つを指す。伝統演劇の顔譜は日本の歌舞伎の隈取りに近い、台湾の伝統演劇でよく見られる、赤、紫、

---

[259] 蔡恵真「台湾の中学校の新設教科である郷土芸術活動とその実施状況について」『美術教育学第20号』、美術科教育学会、1999年３月、148-149頁

黒、藍、緑、白、金、銀の九つの基本色で、劇の人物の性格を象徴する平面造形表現である。民間の吉祥図画は、台湾の廟宇建築でよく見られる獅子、龍、鹿、蜂、猿、八仙や、伝統民家でよく見られる蝙蝠、鯉、牡丹、鶴、石榴、葡萄、松、梅など「吉祥」の意味を含む絵を指す物である。

立体造形芸術においては、伝統建築、花灯篭、凧、伝統家具、彫刻、陶芸、草木編み、郷土玩具、交趾陶、剪粘などの項目の内容も概観的に描かれている。例を挙げれば、伝統建築は、廟宇建築、公共建築、民家、宗祠・家廟（同族の代々の祖先を祭る建物）を含む、それぞれんの建築構造、材質、装飾でなった様式が注目すべきものである。花灯篭は、台湾の民俗行事である、旧暦の上元に各地の寺廟が行われる花灯篭のコンクール（元宵花燈）や、婚冠葬祭の式典でよく使われるものである。凧は、和紙と竹籤を用いる、「紮、糊、絵、放（凧づくりの手順）」の伝統技法が強調されている。郷土玩具では、竹とんぼ、水でっぽ、コマ、手玉、草ばった、めんこなどが挙げられている。土、葦、葉、石、木、小麦粉、布などの素材の利用と手作りの技法が、強調されている。剪粘は、台湾の寺廟の特有な装飾であると言われ、寺廟や邸宅の屋根の真中と両端に、陶磁とガラスで作った吉祥な模様を飾るという明、清時代から伝わった建築の装飾技法であり、色は鮮やかで、長年経ても変わらないのは特徴である（資料6-7参照）。

（2）各地方の伝統的な特色の強調

平面造形芸術のジャンルは立体造形芸術のジャンルより、全国的共通のものが見られるが、立体造形芸術においては、共通性と特殊性が両方同時に示されているものがある。そして、原住民造形芸術では、地方の相違性が明らかに現れている。

まず、立体造形芸術においての伝統建築、遺址、彫刻、草木編みのいくつかの事例を述べたい。伝統建築の項目では、共通的な内容のほか、地方の代表的な建築も多く挙げられている。例えば、金門県の門南様式の民家、高雄県の旗山の洋風建築、台中県の大甲慈済宮、台北県の林家花園、清の時代の社学（清の時代に地方の学校は府学、県学、社学のレベルに分けられていた）である台中市の文昌廟、台南県の伝統民家である江宅古厝、麻豆林宅、大内楊宅などの特徴についての紹介は各地方の伝統建築ジャンルに取り入れられている。そのほか、約四千年前に「圓山文化人」によりできた、台湾で最大級の貝塚考古遺址である台北市の「圓山文化遺址」、防水性の強い高雄県美濃の油紙傘、日本や、東南アジアでもよく見られる、苗栗県の通宵、苑里の藺草帽子、シート、木彫の里と言われる三義で生産した、木の瘤の形をうまく生かしている作品（資料6-8参照）、高雄市左営天府宮の龍柱、桃園県大溪の伝統家具、花蓮県の大理石製品なども地方の特色として、各地方の『郷土芸術活動』の重要な教

材である。

そして、最も地方の独自性が見られるジャンルである原住民の造形芸術においては、台湾各地の原住民各族の分布状況にしたがって、各地方の教科書でそれぞれの特徴が示されている。つまり、東部、南部の各県が出版した本においては、排湾族、魯凱族、卑南族、阿美族、雅美族の事について多く取り入れているが、中部、北部の場合は、泰雅族、賽夏族、曹族、布農族に焦点を合わせたことがよく見られる。例えば、北部の桃園県と中部の苗栗県の教科書には、同様に、泰雅族や、賽夏族の造形芸術を代表する黥面（身分や地位を区別するため、顔に異なる模様の入れずみをする）、夾織、装飾品、竹屋、藤竹編の日常器物などを主な学習内容になっている。しかし、南部の高雄県の教科書には、魯凱族の石板屋や、赤、黄、緑の糸で表現する壷、人間、百歩蛇模様の刺繍などの造形芸術が取り上げている。原住民部落のない台北市や、高雄市の場合は、原住民各族の造形芸術に関する概観的な内容が見られる。

第４節　小・中学校の授業例

１．小学校の授業例

（1）私とともに成長してきて、成長していくところどころ

台中市上石国民小学は成立して一年も立っていない新しい学校であり、校舎の空間デザインは伝統的学校と異なって、機能的側面と美的側面の両方がうまく融合されている特色が見られる学校である。周辺はマンションが集中していて、単純な住宅街の環境がほとんどである。

多くの教師は新設教科の「郷土教学活動」に対して不安を抱えている。この不安を解消するため、今回の行事を企画した。行事において、台中市の国民教育輔導団「郷土教学活動」科チームを招き、実際の授業を通じて、教師側とチームの方々との意見交換をできたら、目的は達成する（資料6-9参照）。

当日の授業は3学年の「郷土教学活動」における「私とともに成長してきて、成長していくところどころ」という単元の第1節「賑やかな大道路」である。この単元は全部で1.賑やかな大道路、2.小川の旅行、3.私たちの世話をする機関、4.面白くて美味しいもののある街、の4節がある。その中の「賑やかな大道路」の目標は学区内の道路を知ることである。この目標に基づいて、1.道路の名前と場所2.道路の起点と終点、3.道路の機能、の三つの学習内容が示されている。

時間になって、輔導団「郷土教学活動」科チーム、校長、全校の教師が教室に入り、授業が始まる（資料6-10、6-11参照）。

①展示地図を見ながら、写真を正しく付ける

授業担当の若い男教師はきれいに書いた1枚の「ピッカチュの街探検」を題とする学校周辺図を黒板の中央に張り付けて展示する。地図の両側に「至善路」、「逢甲路」、「同心路」、「光明路」などの道路の名前を書いてある札が並べられている。授業の目標を子ども向けの言葉で子どもたちに分からせてから、用意されたたくさんの写真を提示した。これらの写真はそれぞれの道路に見られる郵便局、銀行、デパート、ガソリンスタンド、ファストフードの店、スーパーマーケット、文化活動センター、図書館などの建物や公園の写真である。

先生は「ここにある写真に写された建物や風景はどの道路に見られますか。知っている人は前に来て、写真を適当な道路の札の行に入れてください。」と聞きながら、子どもたちに写真入れの機会を与えた。

②ワークシートの問題を皆で考えよう

次に、ワークシートの回答を書くこととゲームの時間の準備のため、チーム分けに入る。クラスを6チームに分けられて、ピッカチュ探検のスタートからゴールまでの経路にある上述の写真が写った17個の拠点に関連するワークシートを何枚ずつ配る。各チームは協力して貰ったワークシートに答えを書いた。決まった時間内に完成しなければゲームに参加できないから、教室には子どもたちの討論の声は充満していて、3年生の活発さは素直に見せた。先生は巡回して各チームの討論を見ていて、ときどき助言する様子も見られる。

③ゲームが始まる

射的ゲームの道具と得点表が黒板の左側に用意されている。各チームの代表が前に着て、グー・チョキ・パーで順を決めて、順番に矢を投げ、得た点数で好きな道を選んでスタートした。途中に通られた拠点のワークシートを持っているチームは調べた結果を発表することになるので、毎回、射的すると、何人が発表する様子が見られる。例えば、文化活動センターを通ったとき、該当するチームの「皆は文化活動センターで、体操、囲碁、スポーツ、お絵描き、ダンス、テニス、おしゃべり、ランニング、キャッチボール、自転車乗りなどをする。」の発表を聞いて、先生は、「えー、文化活動センターで自転車乗りをすると危ないではありませんか。」と言い出して、クラス全員だけでなく、参観の先生も笑ってしまった。

最後に、ゴールに一番戻ってきたチームは先生にプレゼントを貰って、「これから下校の準備をする。帰る道に今日習ったものあるかどうか実際に確認してみてね。」の先生の話を聞いて、授業を終えた。

この授業で直接に郷土美術に関する物事を提起されていないが、子どもたちが学校周辺に散在するさまざまな建物の形や風景に触れることができたのも内在する郷土美術学習と考えられる。

（2）石で遊ぼう、石で作ろう

1999年3月、筆者は第3次の現地調査を行い始めた。11日と12日の二日間、花蓮地区の美術教育家の萬先生の案内を通じて、花蓮地区の郷土芸術教育の実施状況を考察した。花蓮市明義小学校は萬先生の長年勤めた学校であり、現在も美術教育研究と取り組んでいる友だちや、教え子が多くいる学校である。11日の午前中、学校を訪れ、校長の林継盛先生に全国の郷土教育の評価について伺った後、萬先生の教え子の一人の康先生が教えた一時間の郷土「美労」授業を見学させた（資料6-12参照）。

花蓮は大理石をはじめ、いろいろな珍しい石の産地で知られ、多くの原住民が在住し、豊かな郷土文化を持つところである。この地方の特産の石を使う今日の授業は「石で何を作ろう」の単元の一時間目の授業であり、石の色塗りと

石工作のスライド鑑賞を中心とするものである。

①ゲームで遊ぼう

康先生は、まず「皆さんはたくさんの石をもってきました。これらの石は、気をつけて使わないと危ないですよ。絶対投げない、落とさないように。」と石の扱いに注意すべくことを話した。そして、ゲームに入り、各グループは先生が言い出した条件にしたがって、集めた石からふさわしいものを取り出して、最も良いものをもつチームは勝ちのように丸い、四角い、亀の甲羅、動物、昆虫、卵、鳥の太ももなどのかたちの石がどんどん探し出された。

子どもたちはそれぞれの石がもつ特色を見い出した後、先生は、「皆さんの石はさまざまな形があって、きれいでしょう。では、これらの石をさらにきれいに変身する方法がありますか。」と、問いかけ、こどもたちの造形動機を引き起こした。すると、「色を塗って」、「石の模様を使って」、「石と石を結び付けて」、「彫って」など多くの意見が聞かれた。

②石をきれいにお化粧して

先生は「石を彫るには道具が必要で、力もいるし、危険性があります。皆さんにとっては難しい仕事です。ここでできる作業を考えましょう。」と子どもたちの意見をまとめて、授業の主な学習へ導いて進めていく。「皆さんの絵の具や、クレヨンを使って、石をお化粧しませんか。」と、石の色塗り作業についてを話しを始めた。「石に直接好きな色を塗ると、色は暗くなって、効果が良くないから、好きな色を塗る前、白を使って下塗りをしてね。」と言いながら、白の絵の具に少量の水で溶かすことも説明した。「何を作るかをまず考えて、そして、二つか、三つかの石を色塗りして。」と話しを聞いた子どもたちは待つ余裕がなく、すでに色塗りに忙しくなった。先生も巡回して、絶えずの子どもの質問を答えることや、塗り方の指導に汗をかいた。

③石で作った面白い作品をいっぱい見よう

色を塗った石を乾かす間、先生は子ども向けの石工芸のスライドを見せた。

「この動物の顔の石は二つの耳がついていますよ。どうして。」と聞いたら「それは小さい石をつけた。」と子どもたちが正しく答えた。「これらの作品は何か特色がありますか。」につて、「いくつかの石でつけてできたもの。」、「毛の模様の石を動物の体にした。」の見方が出された。「この白熊を見て、とても立体的に作られました。いろんな角度から見ても似ているでしょう。」と先生は次の石をつける作業のポイントを提示した。石で作ったさまざまな形の魚を見て、「色はきれい。」と子どもの賛美の声が聞こえた。先生は「どうすれば鮮やかな色になりますか。」と聞いて、子どもはすぐ「水を少しだけ使う。」の答えをだし、絵の具の使い方に慣れている様子を見せた。「小さい石の形をよく考えてつけると本物の耳や、翼や、目に見えるでしょう。皆さん後で石を組み合わせるときもよく選んで付けてね。」のように先生はスライドを

見せながら作り方のポイントを何回も提示した。色を塗った石や、自然のままの石で具体的な動物、顔、乗り物、昆虫、恐竜、飾物などに変身する写真は子どもたちの興味を引いた。

鐘の音が鳴らし、本単元の１時間目の授業はここで終わった。

２．.中学校の授業例

（1）龍山寺巡礼（資料6-13）

①出発前の説明

5月20日（1998年）午前9時頃に出発する前、クラス全員が学校の正門前で集合し、先生のワークシートの書き方についての説明を聞いた。

②目的地に到着、観察開始

学校を出て、約10分間歩くと目的地の龍山寺に到着した。先生はまず、龍山寺の歴史を説明して、そして、参観の注意事項も詳しく話した。

先生の引率にしたがって、龍山寺の建築の特色や細部の構造についての観察活動が始まる。入り口にある大きな牌楼（山門）、建物の正門と辺門、正門前にある二本の大きな「龍柱」、浸水を防ぐ建物の「台基」、門と窓を強化する「抱鼓石」、柱の支える力を強める「柱珠」、屋根に装飾されている多くの「交趾陶」、屋根の真ん中に立っている七層塔、「玉皇大帝」を祭るために焚いた香を立てるのに使う「天公炉」、前殿、大殿、後殿の施設が整っていて、三段重ねる構造の屋根もみられる巨大華麗な気勢を持つ寺全体の特徴など全部観察の対象になっている。

「その作り方は石彫、木彫などいろいろありますが、この二本の龍柱は台湾の唯一の銅鋳の龍柱です。」や、「龍山寺は元来は仏寺であったが、日本の植民地時代、日本人は台湾の伝統的宗教に対してさまざまな制限を設けました。その影響で、多くの神像は居場所が無くなってしまって、龍山寺に置かれました。これらの捨てられた神像は後殿に収容されて、龍山寺も純粋の仏寺から現在のように仏教、道教両方の宗教性格を持つ寺になりました。」のように先生の詳細な説明がはじめから最後まで続いた。

③ワークシートに填入・カメラを用いる

生徒たちは先生の話しを聞いて、実物を対照して観ながらワークシートの関連する問題に答えを書く。また、ワークシートには、写真欄が設けられているから、この観察過程における自分が関心する対象の写真を撮ることも生徒にとって重要な仕事である。

龍山中学校は、その所在地は長い歴史の歳月を持つ地方である文化的良い環境に恵まれて、その環境的要素を更に生かして、このような郷土美術学習を取り入れている。授業担当の先生は授業準備は充実で、当日の解説も固くなく、面白さは子どもたちの注意力を引いた。子どもたちも暮らしの中に慣れている龍山寺を今までと違う角度を観ることができ、その美を再発見するに努力していると筆者が感じた。

④ワークシートの内容

台北市立龍山国民中学郷土芸術活動課程龍山寺現地調査ワークシート

皆さんへ

これから龍山寺へ行きます。注意事項は次のようなものです。

＊周りの店や住宅に影響しないように静かに整列で進むこと。

＊寺に入って、静かに行動すること。

＊もし、神や仏に何かを捧げたかったら、洗って捧げること。

＊観察するとき、先生の説明をよく聞いて、専念して観察し、筆記と写真で記録すること。

教室に戻ったら、一緒に討論し、皆さんの発表を待っています。最後に、先生は、今回の現地調査は私たちのいい思い出になるように願っています。

沿革：

1.龍山寺は（　　）省晋江安海龍山寺から分霊して作られたものです。

2.龍山寺は清乾隆時代に建てられ、後、震災で仏座以外の建物は倒れました。嘉慶時代に立て直しをしたが、民国8年に、（　　）（地名）の職人を招いて大規模の改築をしました。

布局：

1.龍山寺は三つの殿からなっています。つまり、（　　）殿、（　　）殿と後殿。左右の門は（　　）門と謂われます。

2.屋根は（　　）式で、周りの廻廊は「走馬廊」です。

3.龍山寺の風水は美人穴に属し、昔、美人の鏡と謂われた蓮の池は現在の（　　）になっています。

祭られている神と仏：

1.大殿の広場で（　　）を拝みます。

2.大殿に主に（　　）を祭っていて、その両側に金童と玉女が見られます。

3.後殿には多くの神々が祭られています。三つの神の名前を書いてください。

彫刻と装飾：

1.龍山寺に見られる龍の造形の装飾や彫刻の写真を3枚撮ってください。

2.次のような機能を持つ伝統建築の一部の名前を書いてください。

門の枠を強化するのは（　　）です。

柱の強化と防湿のは（　　）です。

3.次の造形が象徴する意味を書いてください。

龍山寺の石階段の両側に見られる巻物の形は（　　）を象徴します。

龍山寺の藻井（天井の中央の部分）は八卦の形になっていて、（　　）を象徴します。

写真はここに張り付けてください。

(2) 民俗版画鑑賞

この単元は桃園県発行の『桃園県国民中学郷土教材　郷土芸術活動』における郷土造形芸術第一章平面造形芸術の第１節である（資料6-14）。

教科書におけるこの単元の内容は、1.版画の起源、2.民俗版画は台湾民間に与えた影響、3.台湾の伝統版画の種類、4.結語の四つの文字内容で構成されている。関連写真は1.「霊芝図」、2.許詩斌さんの収蔵品の仏像画、3.方志：採賓榔図、4.杜神図、5.紙銭図、6.葫芦問図、7.伝統的題材の現代版画：門神（邱若龍）、8.伝統的題材の現代版画：剣と　獅子図、の8枚が示されている。討論と活動には、1.宗教、民俗活動の版画写真を集めましょう、2.台湾でよく見られる民俗版画の模様の象徴とその色彩応用について分析してみましょう、3.休日を利用して、近くの寺、廟、伝統的建物に飾っている門神、仏像、門眉箋、吉祥字画、紙銭などのものを見つけましょう。これらのものに見られる版画の模様を詳しく写ってください、4.あなたの家でよく使う宗教版画用品をいくつか提出して、使用の状況について詳しく説明してください、の四つの活動がねらわれている[260]。

その教師用指導書には、この単元の指導について、次のような単元目標、教材分析、単元内容説明、指導の流れの四つの項目が設定されている[261]。

壱、単元目標

一、我が国の版画の発展課程を要約し、生徒に版画が台湾の民間に与えた影響を分からせる。

二、解説、鑑賞を通して、生徒に民間における民俗版画の発展と信仰、習慣など庶民生活との密接な関係を分からせる。

弐、教材分析

一、本単元は知識課程であるので、教師は集めた資料や視聴覚教材を用いて、指導に活用して、我が国の伝統的版画の発展過程及び仏教の布教、民間信仰に与えた具体的影響を概略的に紹介する。

二、教師は生徒に提示する作品の背景、特色について、充分に理解させ、生徒の民族的自信と豊かな美的情操を育成する。

参、本単元内容の説明（教科書の写真と学習内容に関する説明）

一、版画の起源（略）

二、中国の版画の成長期である隋唐五代における重要な仏画と彫刻版画の特色を語る。

---

[260] 桃園県国民中学郷土芸術活動編審委員会『桃園県国民中学郷土教材　郷土芸術活動』、桃園県政府、1997年、46-50頁

[261] 桃園県国民中学郷土芸術活動編審委員会『桃園県国民中学郷土教材　郷土芸術活動　教師手冊』、桃園県政府、1997年、30-33頁

三、「霊芝図」に関する解説（略）

四、明の時代の中期から、中国の版画史の黄金期に向かい、戯曲小説の挿絵はこの時期の代表であり、作品の技法は精緻で優雅な表現が見られる。特に、萬暦と天啓の55年間（1573～1627）は黄金期になった。明の時代の後期になると、分版、分色の多色版印刷技法である「飴板拱花法」が完成され、凹凸の特殊押磨で、画面が立体的浮き上がり効果を作らせて、版画が一種の独立専門芸術と認められた。

五、台湾の民俗版画は次の六～十のものがあり、これらのものは、よく年間行事や祭祀の儀式に用いられて、民間信仰との関わりは密接である。その中、お経の巻者は最も多く見られる。

写真2に関する解説（略）

六、方志、経書、善意、医書、農書、画譜に関する解説（略）

七、年画[262]に関する解説（略）

八、宗教版画に関する解説（略）

九、紙銭に関する解説（略）

十、葫芦問に関する解説（略）

津、指導の流れ

一、時間数：本単元は1時間の授業である

二、指導の過程

---

[262] 新年期間に飾る福・禄・寿三仙、宝船、八仙などのような吉祥なテーマで描いた絵。

表6-9　『桃園県国民中学郷土教材　郷土芸術活動』民俗版画鑑賞の指導の流れ

活　　動	指　導　要　点
1.資料の収集と関連媒体の製作	1-1.本単元に関連する写真、書籍、作品を収集する。 1-2.本単元の学習環境を作る。 1-3.教師がスライドを作る。
2.学習の導入と鑑賞内容の提示	2-1.教科書の内容を元にして作られたスライドを映す。 2-2.本単元の重点と鑑賞内容を提示する。 (1)民俗版画の発展過程と特色 (2)民俗版画と台湾の宗教信仰との関わり (3)個人の家の仏壇に飾っている仏像版画を何種類見たことある。 (4)年画について知っていることを述べる。 (5)年間行事や祭祀の儀式に用いられ紙銭の種類を見分けられるか。それぞれの名称を知っているか。 (6)最も特色のあると思って、印象深く残っている作品はどれか。
3.鑑賞	3-1.教科書の提示内容に基づいて更に詳しく解説し、随時適切に補充説明をする。 3-2.スライドを映しながら活発的、具体的面白い解説をする。 3-3.生徒に民俗版画と信仰、迷信との違いを分からせる。
4.討論	4-1.鑑賞した内容について、教師は質問すること、あるいは生徒らが感想を発表するよう共同に意見を交換する。 4-2.教師もこれらの作品の2、3枚に焦点をあわせて比較して解説し、討論の対象とする。 4-3.生徒に発表の場を多く与え、その民俗芸術についての見方を理解する。
5.まとめ	5-1.生徒は討論の内容をまとめて報告する。 5-2.教師は生徒の報告内容をまとめて講評し、本単元の学習について生徒に具体的な、明確な概念を与える。
6.次の単元と事前準備の内容の知らせ	6-1.次の授業に用意する道具や材料を知らせる。 6-2.本単元の教具と資料を片付ける。

3．郷土画家、陶磁器の里

ここで、本章3の（3）で取り上げられた補充教材の『台北県親子休閑旅遊手冊　三峡・鶯歌線』における郷土美術学習から、「郷土画家李梅樹を訪れる」

[263] と「陶磁の里-鶯歌」[264] 二つの事例を選び、それぞれの活動課程と内容について探ってみたい。

（1）単元名：郷土画家李梅樹を訪れる

李梅樹記念館について　本館は、1990年に創設されました。1995年4月に現在の住所の台北県三峡鎮中華路43港10号に移ってきて、正式に「李梅樹記念館」と名付けられました。その創立の趣旨は台湾の美術運動の「万里の長城」と謂われる、台北県三峡鎮（三角湧）生まれ育ちの先輩画家李梅樹（1902-1983）は東京美術学校で習得した美術理論と技法を生かして、一生涯、筆を通じて台湾の郷土の美を描き出して、芸術創作と美術運動において力を尽くしたことを記念するのです。

1947年から、李梅樹はその芸術家の創作精神に基づいて、三峡祖師廟の再建計画に力を入れはじめて、民間芸術と学院派芸術を融合して、「東方芸術の殿堂」の創造に努めました。そして、1935年から1958年までに、三峡街庄協議員や、県議員も勤めました。また、国立芸術専門学校、文化大学、師範大学などにおける教職も知られます。81年間の多彩な芸術家、教育家、政治家の生涯を送って、台湾の美術史で、輝いた一頁を残しました。

本館には、李梅樹の一生涯における各時期の作品のほか、彼の手紙、文書、画具、画稿なども展示されています。この展示を通じて、来館者は芸術家の創作の心の道を体得できて、更に、李梅樹の一生涯は台湾の美術の本土化とともに歩んできたことも理解できるように願っています。

活動①　名探偵の探す、推理、探究

＊記念館には、多くの作品が展示されているが、参観する際、どうして撮影禁止で触れてはいけないのですか。

＊李梅樹が奥さんに贈る刺繍作品の原稿に四つの文字を描かれているが、この四つの文字は何ですか。これらの文字はそれぞれどの動物で象徴されていますか。

＊作品の中には、生き生きとした鳥が描かれている作品があります。この作品は李梅樹が何歳に描いたものですか。

＊麻袋で作られた作品もあるが、その題名を書いてください。

＊「愛する孫」に見られるおもちゃは何ですか。これらのおもちゃと現代のおもちゃとはどんな違いがありますか。

---

[263] 台北県鶯歌国民小学、大成国民小学『台北県親子休閑旅遊手冊　三峡・鶯歌線』、台北県政府、1998年、6-12頁

[264] 同上、42-52頁

＊「ばら」と題する作品は二つあって、それぞれ李おじいさんの早期と晩年の作品を代表するものです。この二つの作品のばらはどんな違いが見い出せますか。

どちらの作品が明るいですか。（　）早期　（　）晩年

どちらの作品が活発ですか。（　）早期　（　）晩年

どちらの作品が本物に近いですか。（　）早期　（　）晩年

あなたはどっちが好きですか。（　）早期　（　）晩年

＊「真夏」と「お化粧」の二つの作品について、どの関わりがありますか。

（　）同じ年代の作品

（　）両方とも人物を主題とする作品

（　）「真夏」の主役は「お化粧」の背景になっています。

（　）両方とも色使いが明るいです。

＊次の三つの作品の年代を線で引いて。

＊展示品には、食べ物のセッティングが見られます。これらのものは李さんの作品に現わしたことがあります。詳しく比べて、作品の題名を書いてください。

＊李さんの作品の多くはどの種類の作品。

（　）油絵　（　）水彩画　（　）水墨画

活動②　忘れられない作品

記念館で見た作品から、最も好きな、あるいは印象深い二つの作品をスケッチして、その題名、年代、理由について語りましょう。

（2）単元名：陶磁の里「鶯歌」

活動①　鶯歌について

鶯歌の地名の起源：鶯歌鎮の旧名は鶯歌石荘であり、北の山の山頂に高く露出している鶯状の岩石によって名付けられました。台北県鶯歌志には、「本鎮は清朝光緒時代に鶯歌石荘と名付けられた。その理由は、北の山の翠嵐斜面に一つの大きな岩石があり、形は鶯に似ているため、鶯歌石と名付けられた。」の記述があります。戦後、鶯歌鎮と正式に替えました。

鶯歌の開拓：鶯歌は、清康熙時代から、開拓を始めました。当時、奥人（広東人）が茶山（現在の建徳里）を、泉州人が南靖（現在の南靖里）を開拓の拠点としました。早期の移民の8割は泉州人であり、残りの2割は章州詔安人と少数の広東人であります。

鶯歌の両大窯の系統：鶯歌は陶磁器の重要な産地で、台湾の「景徳鎮」と謂われます。その理由は、まず、早期の鶯歌は製陶に適する土があって、そして、移住してきた泉州人と章州人は製陶の得意な民族なのです。鶯歌人は泉州の安

渓窯と章州の章浦窯の二つの系統を結び付いて、現在の陶磁器の都に陶磁器の製造を発展させてました。

活動②　鶯歌の煙突

煙雲鎮景：煙突林立は鶯歌の早期の特殊風景と知られて、特に多くの煙突は一斉に煙を噴出するとき、鶯歌の空は煙雲満騰の特殊景観が作り出されます。

窯の発展と煙突景観の形成：鶯歌の製陶は昔は「無履焼」の技法を用いたが、後に、瓦を焼くために「包仔窯」が、陶器を焼くために「蛇窯」が次第に導入しました。植民地時代になると、「登り窯」と「四角窯」が更に導入されました。「包仔窯」、「蛇窯」、「登り窯」の主要燃料は煤炭であるため、大型の煙突は必要な設備となっています。戦後、次第に「四角窯」の使用が普遍になって、燃料もガスに変わりました。現在の鶯歌には、古い大型の煙突はまだ何本保存されていて、皆の当時の煙雲満騰の思い出を引き出せるでしょう。では、ここで、一緒に次の問題を考えましょう。

＊戦後、鶯歌の製陶は（　）窯を使用していますか。

＊植民地時代に（　）窯と（　）窯がよく使われましたか。

＊最も早い時代に（　）窯が使われました。

活動③　陶と磁

陶磁器を作るには、最も基礎的仕事は適切な粘土を選ぶことです。粘土は陶土と磁土があって、その主要な成分は両方とも夕酸と酸化アルミだが、磁土の方は陶土より、鉄と雑質の成分は少ない。ですから、それぞれの焼成品の質も違います。次に、簡単な線引きの遊びで自分の陶磁器の見分け力を試してみましょう。（勿論、先に陶磁器の店の人に聞いても構いません）

＊低温焼成で、固さは低くし、割れやすいもの

＊高温焼成で、固さは高くし、割れにくいもの　　**陶器**

＊軽く叩くと、高い音が出る

＊軽く叩くと、低い音が出る

＊質はざらざらで、重さは軽いもの　　**磁器**

＊質はつるつるで、重さは重いもの

陶器の形制、機能、名称

実用機能	陶　器　の　形　制
食　　器	碗、鉢、盂、豆、盤、簋、盆
飲　　器	杯、尊、爵、鉢
炊　　器	鼎、釜、灶、鬲、甑、盉
容　　器	壷、瓶、甕

これらのさまざまな面白い名前の陶器は一体どんな形のものですか。陶磁器の古い街を散策して見つかるかもしれません。

陶磁器の店を訪れましょう。

＊陶磁器の店で見たものを∨印で付けましょう。

（　）茶壷　（　）花瓶　（　）灰皿　（　）陶板

（　）唐三彩　（　）交趾焼　（　）杯　（　）碗、盤

（　）タイル壁飾　（　）陶笛　（　）甕　（　）陶椅

＊参観した店の名前を書いてください。

＊聞いた問題を書いてください。

活動④　陶器作りについて

☞陶磁器の製作過程

選土→成型→上釉→控温→鑑賞、使用

以上の製作過程を分かれば、陶磁の世界へようこそ。興味があったら、陶磁の古い街には陶磁器作りの体験教室が開かれています。体験して見ませんか。

＊陶磁器作りの主な材料は何ですか。

（　）砂　（　）陶土　（　）磁土　（　）油粘土

＊次のどの技法で型を作りましたか。

（　）手捻り　（　）輪積み　（　）轆轤挽き　（　）陶板法

（　）割り型法　（　）その他：

＊釉薬はきれいな色は多くあるが、釉薬は何の目的に使用しますか。

（　）防水　（　）汚れ防止　（　）酸鹸の浸食を防ぐ　（　）美化

＊今日見た最もきれいな陶磁器について詳しく描いてみましょう。

☞手捻りとは

手捻りは、指で型を作り出すことです。この技法は、製作者の個性を表現しやすい。初心者は粘土を縄状に練って、輪積みにして、あるいは陶板法で粘土を平板に延ばして型を作ると成功しやすい。

関心と体験

＊触ってみて、土の温度は

（　）暖かい、冷たい　（　）熱い

＊土と土を結び付く場合、なにを接合剤とすればよいか。

（　）のり　（　）泥、水

＊どの店には手捻りの作品が見られますか。探してみましょう。

＊最も好きな一つの手捻りの作品をスケッチしましょう。

☞轆轤（ろくろ）挽きとは

轆轤挽きで作ったよい作品は、見るひとに薄さ、均衡、流暢、典雅などが感じさせられます。轆轤挽きは挑戦性の高い技術と思われます。ただ、土を轆轤の安定的な中心に位置することだけも数ヵ月の努力が必要とします。ですから、初めての作業で完全な作品を作れるのはとても難しいことだが、轆轤挽きの面白さを体験することもたのしいことです。

体験と関心

＊皆さん、可愛い王女様が道を迷いました。あなたの知恵と勇気を早く発揮して王女様を救い出してください。（轆轤挽き過程を正確に認識するための迷路）

☞絵描き

陶磁器にきれいな福を着せることの意味と思える陶磁器の絵描きは、それぞれの釉薬の適切な温度によって、その技法は釉上彩と釉下彩の区別があります。鴬歌においては、転写法と手描き法の二つの技法が普遍的見られまする。転写法は、模様が付いているシールを陶磁器の素焼きものに張って、電気で焼いて、シールの模様を転写する技法です。大量生産に適するが精緻度は手描き法より低いのはこの技法の欠点です。手描き法は、直接に手で描く技法ですから、精緻的表現ができるし、個人的風格も作り出すことができます。

体験と関心

＊転写法、あるいは手描き法で作られた作品を分けられますか。

＊転写法の特色と欠点について話してみてください。

＊細かく観察して、手描き法の特色を考えてください。

＊筆で釉薬を付けて描くとき、釉薬が垂れるのをどう避ければよいか。

（　）多く付けないように適量でよい。

（　）濃く付けると、色がきれいになる。

活動⑤　尋幽訪勝に行こう

この活動は鴬歌における鴬歌石、碧龍宮、宏徳宮の三つの名所を訪れるに関

する過程と内容であるが、本節の２の事例「龍山寺巡礼」と類似する点が多くあるので、重複を避けるため、ここでこの活動に関する紹介を省略したい。

第５節　本章のまとめ

台湾の小・中学校の郷土教科の導入にしたがって、各地方が編集した多様な郷土教科書を分析し、それぞれの郷土美術の特質を見い出す目的としている本研究の考察結果は次のように要約できる。

１．編集・出版システムと教科書の多様化

台湾の教育部は、各地方の三年間の実施状況と経費の運用を具体的に把握することを目的として、1998年2月に郷土教育に専門知識を持つ学者、学校の校長、教師を招聘し、訪問視察委員会を設立して、10月まで集中審査や現地視察を通して、各地方の実績を評価した。この評価の結果と筆者の調査結果をまとめて見ると、小学校の「郷土教学活動」と中学校の「郷土芸術活動」において使われている教科書の編集・出版システムと本の種類は多様である特徴が明らかにした。

これらのシステムを大別すれば、1.主催者である地方の教育局が専門家を招き、編集や研究グループを作り、一つの学校にまとめ役を任せて県・市版教科書を作るシステム、2.教育局は、管轄下の各行政区に編集や研究グループの結成することを依頼し、補助金を与え、行政区版教科書を作らせるシステム、3.教育局が補助金を各学校に与え、各校が独自に編集や研究グループを結成して、最も適した学校版教科書を作るシステム。4.学校は、教育局の郷土教材制作補助金を申請せず、全て独自作業で学校版教科書の編集と発行を行うシステムの四つのシステムが見られる。

２．郷土の地理的空間範囲の設定

これらの郷土教科書の出版経費の内容を見ると、教育部の「小・中学校の郷土教育実施の補助計画」の補助金と各県・市政府の補助金を併せたものが最も多かったことが分かった。しかし、学校の独自の経費で作ったケースも見られる。教科書内容に触れられた空間範囲で類別すれば、1.県・市を範囲とするもの、2.地区（郷、鎮、市）を範囲とするもの、3.学校とその所在するコミュニ

ティを範囲とするものの三種に分けられる。また、補充教材を発行し、使用している地方は少なくないが、小学校においての補充教材の出版は中学校より盛んに見られる。

3．合科的編成と分科的編成

郷土教科書の内容編成については、小学校の「郷土教学活動」教科書は、郷土の歴史、地理、自然、芸術、言語を融合して取り入れ、「章、節」、あるいは「単元」の組み方で各学習単元が合科的なかたちで編成されている。しかし、郷土言語を独立させ、河洛語、客家語、原住民各族の言語読本のかたちで、「郷土教学活動」授業で教えている地方も少なくない。その単元別の評価活動も、「ワークシート」、「親子時間」、「参観活動」、「描いて、歌って、踊って、調べて」など各種の方法が見られ、しかも、それらの評価活動が学習内容に大きな割合を占めているという特徴が明らかである。

小学校の合科的編成に対して、中学校における『郷土芸術活動』教科書の内容編成は、「篇」、「章」、「節」の組み方はそれぞれ違っているが、『国民中学課程標準』の「郷土芸術活動」の学習内容に明示されている「郷土芸術活動への認識」、「郷土造形芸術」、「郷土芸能」、「郷土芸術の展示と公演」の四つの領域に沿って編成されているものが、最も多く見られる。その「郷土造形芸術」領域は、更に「平面造形」、「立体造形」、「原住民造形芸術」の三つの領域で類別されている。

4．共通性と独自性の均衡

小学校の『郷土教学活動』に見られる郷土美術の学習内容は、各地方の代表的な郷土美術工芸であるから、原住民の造形芸術に関する部分は、各地方の地理条件と深く関係していて、中学校の『郷土芸術活動』とは違って、原住民の少ない、あるいはいない地方の教科書には、原住民の造形芸術が全然見られないが、台東、花蓮、宜蘭のような原住民の分布が多い地方の郷土教学活動教科書は、原住民の造形芸術の単元を豊富に取り入れている。

中学校の『郷土芸術活動』における郷土美術に関する具体的な内容においては、台湾の郷土美術の共通性を概観的に紹介するのは、平面造形芸術においての民俗版画、廟宇の彩絵、民間の吉祥図画、伝統演劇の顔譜の四つの項目と立体造形芸術においての伝統建築、花灯篭、凧、伝統家具、彫刻、陶芸、草木編み、郷土玩具、交趾陶などの項目である。そして、立体造形芸術においての伝

統建築、遺跡、彫刻、草木編みのいくつか項目は、各地方の伝統的な特色を強調するものである。また、最も地方の独自性が見られるジャンルである原住民の造形芸術においては、台湾各地の原住民各族の分布状況にしたがって、各地方の教科書でそれぞれの特徴が示されている。

5．多様な授業例による考察

郷土美術授業例には小学校と中学校の授業例を取り入れた。小学校の授業例は、台中市上石小学校の郷土教学活動科授業の「私とともに成長してきて、成長していくところどころ」と花蓮市明義小学校の美労科授業の「石で遊ぼう、石で作ろう」の二つの授業を中心とするものである。中学校の授業例は、台北市龍山中学校の「龍山寺巡礼」と桃園県の『桃園県国民中学郷土教材　郷土芸術活動』における郷土造形芸術の「民俗版画鑑賞」の二つの授業例を主にする。

この四つの授業例の中には、筆者が「私とともに成長してきて、成長していくいくところ」、「石で遊ぼう、石で作ろう」、「龍山寺巡礼」の三つの授業を実際に見学し、写真とカセットテープで記録したものである。いずれも子どもたちの楽しい学習の様子が印象深く残っていて、郷土学習の楽しさも味わわせた。

しかし、小学校と中学校それぞれの郷土美術学習の目標と内容の設定が異なっているから、小学校における「私とともに成長してきて、成長していくいくところ」、「石で遊ぼう、石で作ろう」の二つの授業は、遊びや造形活動を通じての郷土美術学習の融合的教科性格は明らかに現われている。小学校のこの特徴に対して、中学校の「龍山寺巡礼」の授業は、鑑賞対象を学校所在地の行政区内の「龍山寺」に設定し、専門的郷土美術の鑑賞を中心とするかたちで行われた。

この小学校と中学校の授業の関わりを考えれば、つまり、子どもたちは、小学校の「郷土教学活動」授業を通じて、郷土美術とのふれあい機会が与えられる。この段階を踏まえ、中学校において、「郷土芸術活動」における郷土美術学習を通じて、その郷土美術の認知活動を深めていくという関わりが示されている。筆者は、これらの授業見学を通して、小・中学校の郷土美術教育の一貫性というねらいを実際に把握できた。

補充教材の授業例は、青少年向けの『台北県親子休閑旅遊手冊　三峡・鶯歌線』における郷土美術学習の「郷土画家李梅樹を訪れる」と「陶磁の里-鶯歌」の二つの事例を選んだ。

「郷土画家李梅樹を訪れる」は、台湾の美術運動の「万里の長城」と謂われる、台北県三峡鎮（三角湧）生まれ育つの先輩画家李梅樹の一生涯、筆を通じ

て台湾の郷土の美を描き出して、芸術創作と美術運動において力を尽くしたこととと、彼の三峡祖師廟の再建計画に力を入れはじめて、民間芸術と学院派芸術を融合して、「東方芸術の殿堂」の創造に努めましたことを李梅樹記念館においての二つの活動を通じて子どもや親に伝える企画である。

「陶磁の里-鶯歌」は、本論文の第５章にも紹介した鶯歌地区を更に深めて理解できるような活動と考える。この活動は、手冊に紹介されている鶯歌の地名の起源、鶯歌の製陶の歴史的発展、陶磁器を作るのに最も基礎的知識や技法を陶磁器の古街の訪れる体験学習を通じて習得する企画である。このような郷土美術学習の補充教材は学校の郷土学習に拡充的な効果を与えられる一つの方法である。

以上、台湾全土の共通性と各地方の独自性とが同時に示されているこれらの郷土教科書における郷土美術内容の分析を通して、その目的として表現よりも鑑賞が強く強調されていること、小・中学校の一貫性が明確にされていること、そして、見失われた豊富な台湾の文化遺産の価値を見直すべきであることなどの結論が見い出された。そして、取り上げられたいくつかの授業例も郷土美術が持つ豊富なエネルギーを再発掘の試みと考えられ、郷土学習の精神を反映し、郷土学習の理論を実証できたものである。